



～父の日おもしろエピソード受賞作品 10 作品～

仕事帰りの車の中で、何か膝の辺りが“ちくっ”としたそう。

静電気がおきやすそうな素材のズボンだった為、静電気かと思い特に気にしてなかったら、少しして“かさかさかさ”とズボンの中で何かが動いている！！

次の信号待ちでそとズボンの中を覗くと大きめの足長蜂がいるではないか！運転中だった為、蜂が動かないようにズボンの上から蜂を掴みそのまま帰宅。無事帰宅して外に逃してあげたそうだが、ちくつとした部分が赤く腫れ上がっており痛いのですぐに病院へ行き塗り薬を買ったそう。

そこで先生から一言 “3年前にも蜂に刺されて来院されてますね、その時は頭頂部でしたけど。”と言われたと。(家の庭掃除をして刺されたそうです笑)

更に余談があり、会社から帰る前に会社の事務所で足長蜂が2匹飛んでいて、1匹退治してきたそうです…完全に退治された蜂の友達の復讐だと言っていました。ここ最近で1番笑ったエピソードです！！蜂に刺されやすい体質であるのかな？とも思いました。

私が幼い頃は夏が暑かった。エアコンがまだ普及していない時代でしたから。

夏の夜母が寝静まった時間になると私と妹は父に起こされました。

冷蔵庫から冷えたスイカを出してゴツゴツ3人で食べるのです。時には父が包丁でスイカをくり抜いて細工したスイカのオバケを作ってくれて。

いつもいつでも優しく面白い父が大好きでした。それは私が大人になっても変わりませんでした。

時は流れ、私も自分の子供を持ち、気が付けば娘達に同じようにスイカのお化けを作るようになりました。

娘達も優しく面白いジーちゃんが一番好きでした。

私の父は13年前に68歳で亡くなり、今では私もいい歳のオバサンです。

スイカのおバケを興奮して大喜びしていた私の娘達も2人共社会人になりました。

毎年夏が来てスーパーの店頭でスイカが並ぶと、父との思い出と何とも言えない愛情の笑顔を懐かしく思い出します。

私の娘達も将来結婚し子供を持つ時が来たらスイカのおバケを作るでしょうか。

私の父は、2年前に持病で若くして他界しています。

私は21歳で結婚、22歳で娘を出産。そんな初孫が産まれてからのエピソードです。

産まれた時から、誰がどう見てもパパ似の孫娘、どうしても隔世遺伝で自分に似ているところがないかと探す父。大きな瞳を凝らし、自分に少しでも似ているところを時間を掛けてとある日に発見した父！！

第一声に、『あったぞ！！じじに似てるとこ！足の指の形そっくりだろ』

嬉しそうにしている姿衝撃的でも有りましたが、まさかの？そんなとこ？笑

と、家族一同肩を震わす場面は忘れもしないでしょう。孫娘は、今年成人しましたが相変わらずのパパ似ですが、足の指は父似です。

父の日は、大好きなドラ焼きとお花を供えようと思います。天国のお父さん、そちらでもきっと陽気にお過ごしだと思いますが、あなたの孫娘隔世遺伝だと後世にもお伝えしときますね😊

今でも思い出して姉とクスクスわらってます！

父が還暦になって初めての父の日、赤いパンツを姉妹でプレゼントしました。

誕生日の時はプレゼント指定だったので父の日に渡しました！

こちらとしたら、笑ってくれるかなって気持ちで渡したんですが、父が私たちに『ふざけるな！』と怒りだしました！えっ！？って感じでした（笑）

『お前らは俺が年寄りだとおもってるのか！？！？俺は、還暦だけど還暦ほど年寄りじゃねえー！

赤いもの身につけたら年寄りだと認めることになる。そんなの嫌だ！だからこのパンツは自分が年寄りだと認めてから履くからなっ！』

と謎のこだわり（笑）そしてちゃんと貰ってはくれるんだとみんなでクスクス笑いました！本人は至って本気だったようで78歳になった今でもはいておりません！

20代が行くような洋服屋さんで服を買ったり、タピオカ、パンケーキを調べて食べるくらいなので、父はきっと最後まで年寄りだと認めず、パンツは綺麗なまま残ってると思います（笑）

うちのパパは、なんでもガムテープで済ませてしまいます。

自転車の車庫や車のタイヤの保管カバーの補強は当たり前で、部屋の壁の穴や網戸の穴、靴底の穴、全て、ガムテープでとめちゃいます。

一番、笑えたのは、海外出張から帰って来た時、スーツケースのタイヤと留め金の補強とスーツのパンツの裾上げを裏側からガムテープでとめて、ガタガタとすごい音をたてながら、ぎこちない歩き方で駅から出てきて、豪快に、笑いながら、ガムテープは最強だなあ！って、迎えに行った息子達と、大笑いしました。

B型で変わり者ですが、真面目で働き者で、優しいパパは、私と三人の息子達は大好きですが、全て、ガムテープで済ませるのは卒業して欲しいと思う、今日、この頃です。

これは、祖母から聞いた父の面白いエピソードです。

当人である父からすると忘れたいほど嫌な事件かもしれません。

父が小学生の頃、押し入れに閉じこもり出てこなかった日がありました。

授業参観日、教室の外には子供の名前とテストの成績が記載されておりました。

お母さんの集団が1人の児童のことを話していたそうです。

どうやら父のことです。『まあ、この子は随分と優秀ね！』『息子なら自慢よね』と口々にしておりました。

それを聞いた祖母は父の成績表を覗き込むと、ほぼ90点以上の好成绩だったそうです。

そう、ひとつだけ国語で70点台の点数がありました。

祖母の頭は？が飛び交うのです。父が持ち帰ったテストに70点台の国語のテストがなかったからです。

父はテストで70点台を初めて取りショックだったこと、また祖母に怒られると思い隠したそうです。

この授業参観をきっかけに秘密がバレてしまいました。

その日の夜、父はずっと隠していた点数がバレてしまい、ショックと恥ずかしさから押し入れにとじこまりました。

祖母は低い点数を取ったことよりも、その事実を隠した行為を叱りました。

それ以来、国語は常にトップの成績だったそうです。

そして、嘘が何よりも誰よりも苦手になりました。

これが、頑固な父親の誕生秘話です。

私が高校生の頃、部活帰りのある日の出来事。

～♪♪♪～

私からの着信に父は

「なんだ？」といつものようにそっけなく出た。

「どーしよう！携帯無くしちゃった！」と大慌ての私。

父は心配そうに

「カバンの中は？」

「ない！」と私。

父「ロッカーは？」

私「探したけどない！どーしよう！！」

父「落ち着け、最後に使ったのは??」

私「昼休み」

父「それからどうした」

私「えっと…えっと…どーしよう。。。」

父「落ち着けて。待ってろ。今かけてみるから」

ん???分かりました？

私は自分の携帯から父に携帯がない！と電話したんです。電話越しに一生懸命私の携帯を探そうとしてくれた父。今思い出しても笑ってしまうイタズラエピソードでした。

うちの父(81)は、昔から UFO とか狐の嫁入りなど自分が見た話を私の母、娘二人(姉、私)孫 5 人、親戚に話すことが好きな父です。都市伝説とかすぐ信じてしまう父です。自分の体験談らしいのですが、実際私達は見たことがないので本当かどうかわかりませんが真剣な顔をしてジェスチャーを入れて説明してくれます。

耳にタコが出来くらい聞いたのですが、忘れたころにまた聞くとまた始まったとばかりについ、笑いをこらえて聞いています。姉が笑いながら子供達に「じいちゃんが、大事な話をしてるんだから、良く聞きな。伝承しな。」と言います。耳にタコが出来てもいつまでも聞いてほしいですし、元気でいてほしいです。

お父さんいつもありがとう。❤

30年前にこの時計は偽物だよ〜と海外で買ってきた腕時計が、最近になって本物だと知った。

父は既に亡くなっており、形見として私たち夫婦が譲り受けたのです。

ずっと偽物だと思っていましたが、もしかして…？という思いがあり、腕時計を売っている店の人に見せたら本物だと言われました。修理して使っています。

ちなみに当時の価格は数十万円ほどでしたが、同じものが現在では150万円ほどで取り引きされています。

この時計を修理したご縁でしょうか、なかなかお店の人が出してくれなかったのですが、欲しかった時計を売ってくれることになったのです。

それまで何度通っても現物を出してもらうことはなかったのに…

父の腕時計も、新しい腕時計も二つ並んでケースにしまってあります。

なぜ嘘をついたのか？それは母にうるさく言われると思ったからだと思います。

普通は逆の嘘をつくけど、こういうこともあるのだなあといった出来事でした。

私が子供の頃、サプライズ好きの父（去年亡くなりましたが）は、私が欲しい物などを直接聞かず、母との会話を盗み聞きというか、こっそり大体聞いて、ある日突然、じゃ〜んという感じでプレゼントをくれるんですが、毎回なんか違う物くれるんです(^_^;)

例えば、赤い自転車が欲しかったのに、実際には、エメラルドグリーンの自転車だったり、ローラースケートが欲しいっていったら（光 GENJI が流行った頃）、鉄の塊みたいな信じられないくらい古いスケート靴を買ってみたり。毎回がっかりしてた思い出があります。

今にして思えば、適当に聞いて買ってしまうのと、お小遣いの範囲で買うのに、思うような物が買えなかったのかなとか。

それを想像すると、なんとも愛らしく、何より、とにかく子供の喜ぶ顔が見たかったんだなあと思うととても子煩悩な父だったんだなあ嬉しくなってしまう。今は亡き父ですので、その真相はわからないままですが、とても愛されてたんだなあ胸を張って言えます！！